

紫電改復元平和の象徴に

① この記事の5W1Hを書きましょう。

いつ { }
 どこで { }
 誰(何)が { }
 どうした { }
 どのように { }
 なぜ { }

② 記事を読んでどう思いましたか。感想を書きましょう。

NIEワークシート／小学高学年～高校生／社会、地歴、総合、朝NIE

加西市は市民団体の協力を得て、旧日本海軍の姫路海軍航空隊
 鷲野飛行場跡(同市鷲野町)に整備する戦争遺跡群のシンボル
 として、太平洋戦争末期に市内の川西航空機(現・新明和工業)
 工場を組み立てられた戦闘機「紫電改」のレプリカを制作するこ
 とを決めた。2017年度に着手し、平和学習などに生かす考え
 で、19年春にも完成する見込みだ。
 (河尻 悟) (昭和20)年1月から

紫電改(全長約9.9
 全幅約12.6)は、スピ
 ードと上昇機能に優
 れ、主力戦闘機だっ
 たゼロ戦の後継機として
 期待された。1945



建設構想がある加西市鷲野
 ミュージアム(仮称)のイメ
 ジ図。下が戦闘機「紫電改」、上
 は制作を検討中の「九七式艦
 上攻撃機」のレプリカ(加西市
 提供)。太平洋戦争末期に製
 造された「紫電改」の試作機



加西市など19年春完成目指す 鷲野飛行場跡で展示へ

国から加西市に払い下げられた鷲野飛行場
 の滑走路跡＝同市鷲野町



鷲野飛行場 19
 43(昭和18)年、
 旧日本海軍が飛行士養
 成のため建設。45(同
 20)年には神風特攻隊
 「白鷺(はくろ)隊」
 が編成され、訓練基地
 として使われた。同年、

試験飛行中の紫電改に
 起因し、乗客ら12人が
 死亡した旧国鉄北条線
 (現北条鉄道)列車脱線
 事故も起きた。現存す
 る滑走路は延長約1200
 ㍎、幅約45㍎。

市は飛行場跡の一部
 を戦争遺産群として整
 備する計画で、レプリ
 カは新設する防災倉庫
 に一時展示した後、構
 想中の市鷲野ミュージ
 アム(仮称)に移す。

加西市の西村和平市
 長は「平和学習の拠点
 や観光スポットとして
 注目される場所にし
 たい」と話している。

旧日本軍が太平洋戦
 争中に使った軍用機で
 は、川崎重工業(神戸
 市)が昨年、前身の川
 崎航空機工業が製造し
 た旧陸軍の戦闘機「飛
 燕」を復元し、神戸市
 内へ公開した。

活用し、事業費を約1
 500万円と見込む。

